



國際文化學科

Department of Intercultural Studies



鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

金子みすゞ

「私と小鳥と鈴と」

私が両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のやうに、
地面^{ちべた}を速くは走れない。

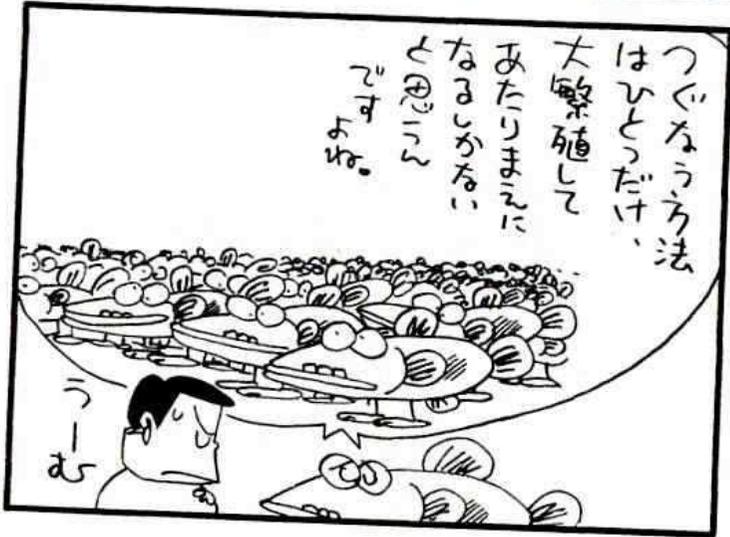
私がからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがつて、みんないい。

- この詩において、「ちがい」は、「飛べない」「走れない」「出ない」「知らない」という無能力の指摘によって、否定的に表現されている。
- つまり、ちがいとは能力の有無なのであると、この詩は歌っている。
- そして、能力の有無は、一般的に、幸不幸を生み出す。

- つまり、私たちの世界の幸不幸は、「ちがっている」ことから生み出される。
- しかし、世界が、ちがいが無い(=均質である)ことは、ありえない。
- すなわち、世界の幸不幸は不可避なのである。
- このように、ちがっていることが幸不幸(はやりの用語では格差)の根源であること、そしてその不可避性を前提として、「みんなちがって、みんないい(幸せ)。」ということばは、読まれるべきである。
- 個性の尊重を、のんきに歌った詩ではない。
ちがっていることは、この意味で、おそろしいことなのである。

という読み方もできるのではなからうか？



いしいひさいち『だからどーした劇場』(双葉文庫)

国際文化学科の教育理念・目標

多文化理解と他文化との交流能力の育成を目的とし、
文化や社会の国際化、地域の国際化
といった時代の変化や社会のニーズに
対応するための教育に重点を置いて
います。

★地域の国際化

学生をはじめとする地域の人々が多様な価値観や視点
の存在を理解すること

本学科のカリキュラムにおいて 養成する主要な能力

- 異文化、多文化的視点からの
文化理解力（政治・経済・宗教・文学等
の理解力）の養成
- 実践的な**外国語**（英語・中国語・韓国
語）**運用能力**の養成
- 国内外における実習経験や国外への
留学経験を通じての**行動力**の養成

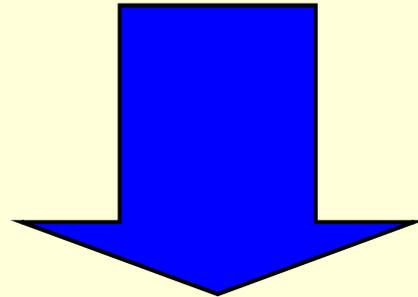
文化とは

- ①定義することは難しいが、ここでは広く、人間の行為によって生まれる全ての事柄と考える。
 - ②私たちが一般的に文化と聞いて思い浮かぶ文学、芸術のほかに、政治、経済、宗教、貧困、飢餓、暴力、戦争などもそれに含まれる。
 - ③また、文化は、国や地域や民族というレベルだけでなく、それより小さな集団のレベル、例えば、居住する地区、大学、サークル、家族といったレベルで考えてもよい。
- ★さらには、個人のレベルで考えてもよい。

文化を比較的な視点から探求して ゆく／自己と他者について

- ①国際文化学は、文化を、**自己と他者との関係**の中で、学び考えてゆく学科である。
- ②自己と他者については、文化と同様に、自己を日本、他者を外国とだけ、考える必要はない。
- ③本学部・学科の「国際」の英訳はinterculturalであって、狭い意味の「国際」internationalではない。
- ④自己を学生である自分自身、他者を社会人としてもよい。
自己を山口県立大学の学生、他者を例えば山口大学の学生としてもよい。
住んでいる場所、出身地、年代で自己と他者の関係を捉えてもよい。もちろん、日本と外国というとらえ方をしてもよい。
このように、自己と他者をとらえる視点・レベルは多様なのである。

文化の比較的視点からの
探求・理解



異文化理解
多文化理解

異文化理解

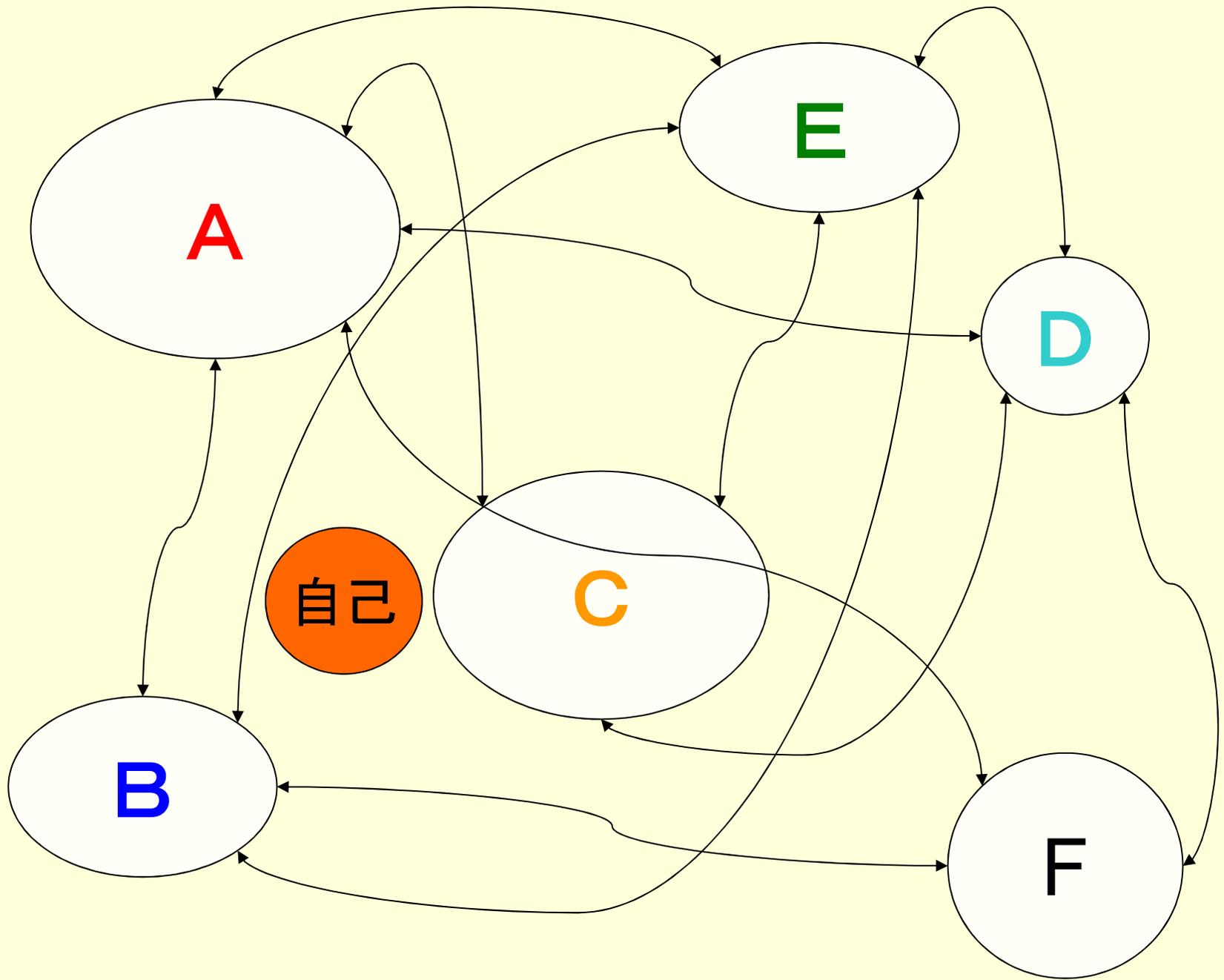
- ①他者が、自分とは違っているな、変わっているな、とわかることから、出発する。
- ②次に、ではどのように違っているのか、違っている背景や原因は何なのかを考え、追求してゆく。
- ③この場合、相手が自分と違っている、変わっているという視点だけではなく、相手から見たら、自分が違っている、変わっている、という考え方をすることが大切。

④自己と他者が、**お互いに違っているのだと**
考えること、
その関係性が「異(inter)」である。
お互いに異なっているということ。

⑤その上で、自己について見つめ直す、考え直
すことが大切。
他者から自己を逆照射する。

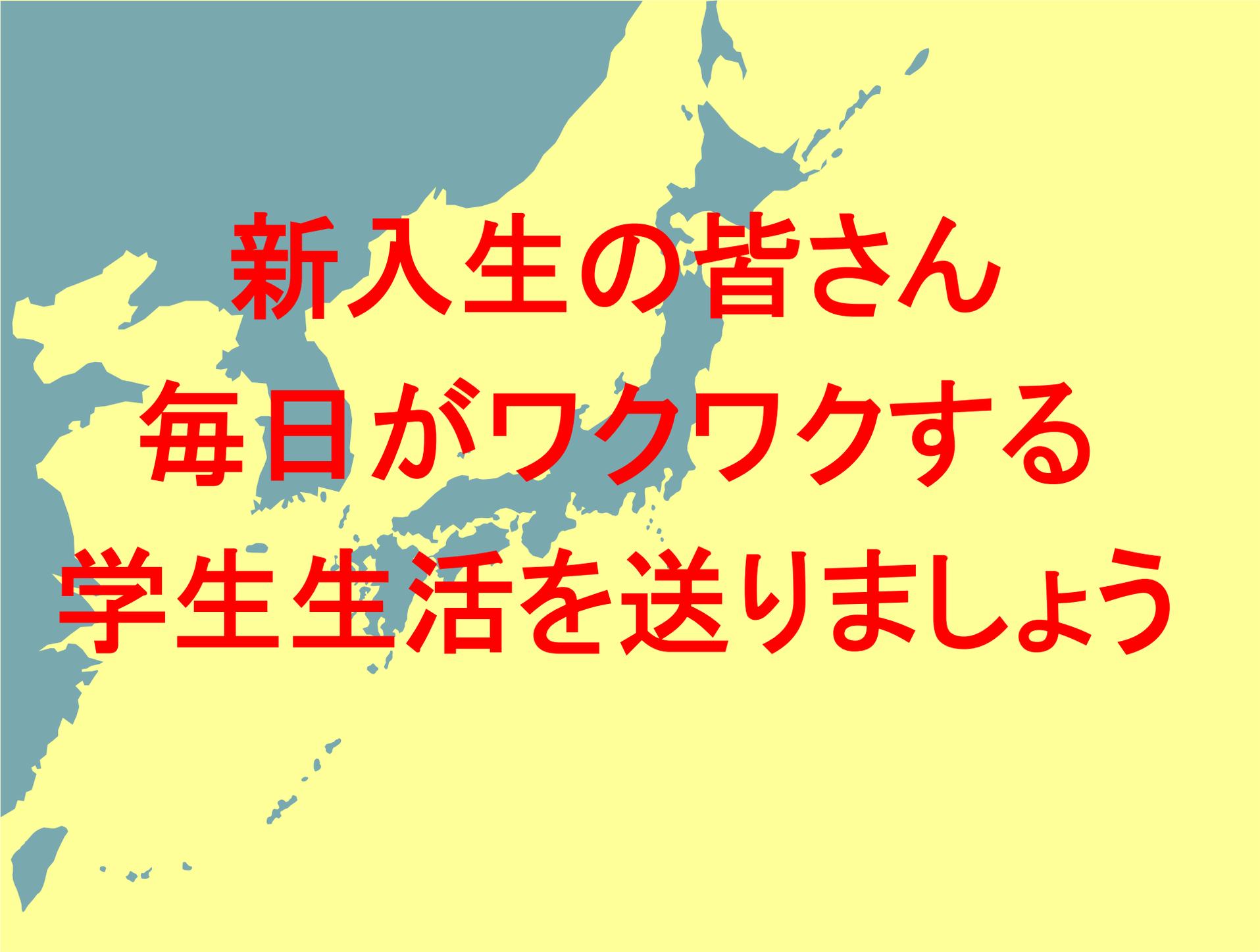
多文化理解

- ①自己と他者の関係は、1対1の単一的なものではない。
- ②A、B、C、D、E...と多くの文化間に、「異」の**関係性のネットワーク**が張り巡らされている。
- ③こういう考え方をするのが多文化理解の原点。
- ④その上で、異なっているのだ、違っているのだということを知る。
- ⑤そして、**違っている他者との交流ができるような知識や能力を身につけてゆく。**



⑥交流においては、相手を理解し、受け入れる
寛容な精神が大切であるが、
全てを**許容する必要はない**。
相手を**理解しながらも、許容しない**ことも必要
である。

★核兵器の脅威で外交交渉を有利に進めよう
とする国家に対して、**そうする理由や背景を
理解することは大切であるが、それを必ずし
も寛容に許す必要はない**。



**新入生の皆さん
毎日がワクワクする
学生生活を送りましょう**